

Diana Rahim

インターベンションズ (介入), 2020

公共スペースは、誰もが使えるスペースとして、本当に誰にでも、誰とでも”共有”されていますか？ 公共スペースは本当に私達のものでしょうか？ 「インターベンションズ(介入)」というこの作品は、シンガポール人アーティスト Diana Rahim が、シンガポール中に、公共施設としては不適切な建築物が普及浸透していることを写真で記録した、現在進行中の#SGHostileArchitecture というプロジェクトを基に作り出されたものです。Diana は、ソフトな色調で撮った何気ない公共スペースの写真であるこれらの作品を通して、#SGHostileArchitecture プロジェクトでの結果を表現しています。これらの写真には、ベンチの出っ張りや障害物など制約された建築上の特徴が見て取れます。

これらの写真は、歩道やボイドデッキと呼ばれる HDB 等の 1 階部分の公共スペースにあるベンチや 2 輪車の侵入を妨害する柵が、実は一般の人々の行動を制限しているのではないかという問いかけをしています。それと共に、公共スペースのコンセプトとは何か、制約的な建築物を建設しなくてはならない場合の作る側と利用する側の合意点とはどこなのかを私達に問いかけています。Diana は、#SGHostileArchitecture というプロジェクトで、親密な”介入”を行って不適切な建築物や構造を作り直し、このプロジェクトの取り組みを縮小できるようにすることで、私たち全員のための公共スペースを取り戻すよう呼びかけています。

Diana Rahim はライターであり、写真家であり、シンガポールの女性ムスリム(イスラム教徒)のためのオンラインプラットフォーム「ビヨンドザヒジャブ」のエディターでもあります。彼女の著書は、ジェンダー、階級、宗教に焦点がおかれ、短編小説や詩集から文芸雑誌や雑誌にいたるまで、様々な分野に及んでいます。